

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年11月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年11月8日～11月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 126社
- 回収率 63.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の11月の状況を見ると業況DIは、前月より2.2ポイント悪化の▲21.4となった。

2017年9月以来63ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲29.4、当月と比べ8.0ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2022年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2022年12月～ 2023年2月
業況	▲24.0	▲22.8	▲26.9	▲21.5	▲19.2	▲21.4	▲29.4
売上	0.9	▲0.8	▲2.4	10.3	14.4	3.9	▲14.3
採算	▲21.5	▲22.8	▲30.1	▲24.6	▲20.8	▲23.0	▲34.2
仕入単価	▲79.3	▲74.8	▲72.4	▲75.4	▲78.4	▲72.2	▲65.9
販売単価	30.6	35.7	34.2	36.5	32.8	37.3	21.5
従業員	30.6	28.4	34.9	37.3	40.8	40.5	36.5
資金繰り	▲15.7	▲15.5	▲14.7	▲12.7	▲10.4	▲11.9	▲15.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2022年12月～ 2023年2月
建設	▲38.0	▲48.1	▲46.7	▲43.3	▲38.7	▲35.5	▲32.2
製造	▲25.0	▲13.3	▲30.8	▲16.7	▲25.9	▲13.8	▲27.6
卸売	▲7.4	▲21.5	▲17.8	▲17.3	▲10.8	▲21.4	▲25.0
小売	▲36.9	▲31.6	▲21.0	▲21.0	▲16.6	▲11.8	▲23.5
サービス	▲11.1	5.3	▲10.0	0.0	4.7	▲19.1	▲38.1

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・職員不足で工事受注を制限したため工事受注量が減じた。更に、資機材価格の高騰により利益が圧迫された。（総合工事） ・自社の課題は、技術職員・協力会社の技能職員の不足、仕入資材の価格改定(値上げ)がいつまで続くのか不安である。業界の課題については、技術職員の不足と仕事量の先細りがあるように感じる。（設備・その他） ・合板・キッチン・ボイラー等の住設の値上げが続いているため、売上単価も上げざるおえない状況。前年との比較によると新築は少なくなっているが、リフォームは大小含めて受注は安定している。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・需要については、少しずつ上昇傾向にあると思うが、先行きは見通せないとも感じている。（食料品） ・コロナによる売上減少の回復。売上げの先行きは見透せないが、春以降の売上げは前年対比で少しずつ回復傾向にある。（印刷・出版） ・原材料だけではなく電気・燃料代が軒並み高騰していることが採算性を悪化させている。今年の春に値上げをしたが、再度値上げを検討中。（家具・木材） ・現場作業(トビ等)の人手不足により現場作業に遅れが生じている。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・商品価格が値上がっていることで先行き不安感はあるが、今のところまだ売上は維持できている。（繊維） ・コロナウイルスの感染者が増加しており、特に年末商戦に向けて営業担当の仕事のフォロー体制の構築が重要と感じている。（飲食料品） ・仕入単価の上昇により売上単価に転嫁出来てはいるが、採算は変わらずといったところ。（機械鋼材） ・当社は営農者向けの売上比率が高く、そのことから例年収穫期以降に販売代金等により売掛金の入金が多くなる傾向にある。前年同期と比較、数字的には大きく乖離していないことから概ね事業計画に沿った形に落ち着くものと思料する。10 月から最低賃金が上がったことから管理費は若干増加するものの、経費の見直しにより吸収できる範囲である。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月の 2 週目あたりから感染者が増大し、全く来店客がない。防寒(アウター)商品の販売時期。来店客の集客を考えなければならない。資金繰りが大変であり売上も厳しい。（衣服身回品） ・引き続き増収傾向。コロナの影響はほぼ回復と言えるが、今期は材料費・人件費・光熱費等の高騰で利益計上に大きく影響。当社も商品価格値上げを実施しているがそれを上回る各種値上がりで、今後収益確保が厳しくなることが予想される。コロナ前の売上高水準となっているが利益計上に黄色信号である。（食料品） ・施設老朽化に伴い、1 店舗を 10 月末で閉鎖したため、その分売上・収入減をどうカバーするかが課題である。円相場・原油価格の変動はあるものの、年内は補助金の調整で仕入値は大きく変わらないであろう。販売価格の維持が重要と考える。（その他） ・仕入れ価格の上昇により、販売価格が上がり高額商品が売れにくくなるため、売上の減少となっている。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスにより全国的に観光客減少のため、ホテル宿泊の減少でリネンサプライ業 3 割減少。それでも少しずつ回復しつつあり、新年に期待をしている。（理美容・クリーニング） ・全国旅行支援のおかげで前年よりは売上も単価も上昇している。向こう 3 ヶ月は観光シーズンも終了している事と感染者が再び増えている事もあり売上は減少が予想される。（ホテル・旅館） ・旭川市内の感染者数が過去最高を記録する等、感染が拡大しており、利用者の回復が足踏み状態となっている中、燃料価格の高騰が終息する気配は未だないことから、引き続き厳しい状況が続くと考えている。また、今後乗務員に多くの感染者が出た場合、減便等特別な運行を行わなければならない状況になる恐れがある。乗務員不足が深刻の度を増しており、運行の効率化等の対策を講じる必要性が高まっている。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI16.1 ポイント悪化、採算 DI12.8 ポイント悪化、仕入単価 DI9.7 ポイント改善、販売単価 DI12.9 ポイント改善、資金 DI 横ばい、従業員 DI3.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事、設備・その他横ばい、建築業 14 ポイント改善となった。今後、公共工事に関わる設計変更（減額）により完工高及び収益の増減が懸念されるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI15.0 ポイント悪化、採算 DI5.5 ポイント改善、仕入単価 DI5.9 ポイント改善、販売単価 DI14.1 ポイント改善、資金 DI0.3 ポイント改善、従業員 DI1.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 12.1 ポイント改善となった。業種別では、食料品横ばい、印刷・出版 20 ポイント、家具・木材 21 ポイント、金属窯業他 14 ポイント改善となった。製紙会社のチップ在庫増によるチップ受入制限のため、木材チップの加工量の減少が懸念されるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI3.5 ポイント悪化、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI7.2 ポイント改善、販売単価 DI10.8 ポイント悪化、資金 DI 横ばい、従業員 DI3.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 10.6 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等横ばい、食料品 11 ポイント、機械鋼材 29 ポイント、その他 1 ポイント悪化となった。物価高騰による客足が減少しているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI5.2 ポイント悪化、採算 DI4.5 ポイント改善、仕入単価 DI8.2 ポイント改善、販売単価 DI1.3 ポイント改善、資金 DI11.1 ポイント改善、従業員 DI2.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.8 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、食料品、自動車横ばい、その他 12 ポイント改善となった。仕入れ商品の多くが値上がりしたため、来店客の購買意欲にブレーキがかかっている。観光客が少し増えた感じはあるが、まだまだ以前のような活気はないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI9.5 ポイント悪化、採算 DI4.8 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI 横ばい、資金 DI19.1 ポイント悪化、従業員 DI4.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 23.8 ポイント悪化となった。業種別では、飲食 5 ポイント改善、理美容・クリーニング、その他横ばい、ホテル・旅館 25 ポイント、整備業 25 ポイント、運送 33 ポイント悪化となった。コロナの感染者が増加してきており、忘新年会シーズンであるが予約がなかなか増えないとの声も寄せられている。</p>